

慢性甲状腺機能障害の疫学と予後に関する研究報告書

1. 北海道におけるクレチン症マス・スクリーニング

北海道大学医学部小児科	松浦 信夫
	野原八千代
札幌医科大学	大柳 和彦
旭川医科大学	奥野 晃正
北海道衛生研究所	市原 侃
札幌市衛生研究所	福士 勝
	高杉 信男

北海道におけるクレチン症マス・スクリーニングは、1976年に北大小児科で一部の病院を対照として始められた。行政レベルにおいては、札幌市衛生研究所が1978年6月より、北海道衛生研究所が1981年1月より開始、全道地域で開始されるに至った。

北海道においては、その地域が広範囲であり、出生した地域によっては専門医のみならず小児科医による精査、治療を受けられない場合もある。本症は治療と予後が大きく関係する疾患であり、スクリーニングされた児の精査から診断、治療が確実に行われているかどうか、チェックしていく機構が必要と考えられる。我々は、北大小児科がステーション的役割を果たす一つのシステムを作り、管理病院との連絡を確実にし本症の児の治療を行っている。

そのシステムは、札幌市、札幌市以外の場合と大きく分けているが、その基本的な骨組は同じである。札幌市の場合、札幌市衛生研究所で検査され、精査の必要な場合は、ただちに北大小児科に精査依頼の連絡がくる。北大小児科では精査日を指定、それに基づいて保健所を通じ家族に連絡される。札幌市の場合は特殊な例を除き北大小児科にて精査、治療される。札幌市以外の場合、道内主要都市に管理病院を設け、その病院と北大が連絡をとり検査治療にあたるというシステムを作っている。北海道衛生研究所で検査され、精査必要な場合は、北大小児科に連絡がくる。そこで出生地に一番近い管理病院を紹介、衛生研究所より出生した施設ないしは地域の保健所を通じ家族に連絡される。同時に北大からもその管理病院に連絡をとり、検査、治療等について依頼する。精査の対照となった児については、我々のところで作成した調査表を送り、症状、検査値、治療内容について記入し報告をお願いする。本症と診断された児については、その後も3カ月毎に1才まで、1才半、2才、3才と調査表を送り治療量、検査成績、発育状態等について報告をお願いしている。中には本症か否か判断の難しい例もあり、一過性高TSH血症と思われる児も含めて経過報告をお願いする形をとっている。

1981年度に北海道のマス・スクリーニングで発見された本症の児は、札幌市で6例、北海道で5例、計11例である。札幌市の1例は、TSH $10\mu\text{U/ml}$ 以下 T_4 正常であった為、治療せずに経過をみていた例であり生後2カ月半時にTSH上昇、 $T_4\ 3.0\mu\text{g/dl}$ にさがり治療を開始した。北海道での1例は、スクリーニング検査の結果のでた時点にはすでに診断が付き治療されていたが多発奇形を合併、種々の

症候を呈し死亡した例を含む。

以上、北海道における二次検索、治療を行う上でのシステム、1981年度に発見された児について報告した。

2. TSH スクリーニングで発見出来なかった原発性甲状腺機能低下症の1例

北海道大学医学部小児科	松浦 信夫
	野原八千代
北海道衛生研究所	市原 侃
大阪大学医学部小児科	野瀬 幸
	豊 徹
	原田 徳蔵
	牧 一郎
	藪内 百治

TSH スクリーニングで発見されず、5カ月時にクレチン症が明らかになった一例を経験した。新生児期、クレチンスクリーニングの所見を中心に報告する。

症例：N. Y. 昭和56年3月25日生。

GIII, PI, ABIIの母親より出生した。父親30才，母親29才。在胎41週+4日。帝王切開にて出生，APS 6点（5分），生下時より systemic cyanosis を認め，酸素マスク，吸引施行後未熟児室 NICU に収容された。生下時体重 2,940 g，身長47.3cmで満期産にしては著しい低身長がみとめられた。

経過：出生時胸骨左縁第4肋門に Levine 3/6 収縮期雑音を認めた。補液，酸素療法で軽快し，生後7日目にはほとんど雑音は消失した。生後2日目より黄疸が出現，計3回の光線療法を行なった。生後27日目，体重 3,385 g で退院した。入院中の検査成績を表1に示す。高コレステロール血症，GOT，GPTの高値はなく，大腿骨遠位端のエピフィーズは9×7mmと大きく認められた。

表1 Laboratory findings (8 D/O)

GOT	13 IU/L	Na	137 mEq/L
GPT	4 "	K	4.5 "
LDH	304 "	Cl	102 "
LAP	64 "	Ca	8.4 mg/dl
BUN	16.6 mg/dl	P	3.8 "
Creat.	0.1 "	T-Chol	159 "
T-Bil.	15.1 "		



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



北海道におけるクレチン症マス・スクリーニングは、1976年に北大小児科で一部の病院を対照として始められた。行政レベルにおいては、札幌市衛生研究所が1978年6月より、北海道衛生研究所が1981年1月より開始、全道地域で開始されるに至った。